

C. U.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

中学生の頃から英語の勉強が好きだったので、いつか英語を話せるようになりたいという気持ちが漠然とありました。しかしながら、高校生の時の英語学習は大学受験のためだけのものだったので、大学ではもっと実践的な英語を学びたいと思い、CASE を受講しました。ネイティブの先生によって行われる授業を受けるのが初めてだったので、とても新鮮で楽しいものでしたが、とても英語を話せるようになったとは言えない状態でした。そこで、今の状況を変えたいと思い、セメスター留学制度に申し込むことを決意しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学に行くことが決定してからは、日常生活の中に英語を少しでも取り入れるために、国際課の English Speaking & Writing Support を利用して、毎週ネイティブの先生とマンツーマンの英会話レッスンを受けていました。また、Netflix で洋画を見たり、洋楽を聴いたりして耳を慣らすようにしていました。ビザ手続きに関しては、たいていの場合、申請後に即日で発行されることが多いみたいですが、私の場合は 2、3 週間ほどかかりました。出発日まで間に合うのかとても怖かったので、ビザの準備は早めに取りかかることをお勧めします。

③ 現地到着後

関西空港から成田経由でゴールドコースト空港に向かいましたが、夜のフライトだったので、寝ていると 8 時間もあっという間でした。オーストラリアに到着してから嚴重な質問を受けることも無く、本当に私は違う国に来たのか、あまり実感が湧かなかったことを覚えています。空港からホームステイ先には、手配されたバスに乗って向かいしました。私のステイ先が一番目だったのでとても緊張していましたが、ホストファミリーが笑顔で迎え入れてくれました。荷ほどきを終えた後には、ホストにスーパーに連れて行ってもらい、SIM カードやシャンプーなどの日用品を買い揃えました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

語学学校の教室やトイレはいつも清掃員の方が朝に掃除をして下さっていたので、清潔感があって綺麗でした。グリフィス大学付属の語学学校だったので、放課後は大学の図書館を利用して友人たちと勉強したり、売店のカフェなどでコーヒーやパンなどの食べ物を

買うことができたり、様々な施設が充実していました。また、学校の近くにはトラムの駅とバス停があるので、放課後に出かける際にとても便利でした。

b.授業内容、課題、試験

担任の先生にもよると思いますが、授業内ではクラスメイトたちと意見を話し合うディスカッションが沢山設けられていました。初めのうちは何を話したら良いのか、どうやって表現するのかも分からず、かなり苦戦していましたが、何度も繰り返す内に慣れることができました。また、DEP5、DEP6 では Writing テストが毎週あり、その都度、先生からのフィードバックを受け、それらを書き直すことで書く力がかなり鍛えられたように思います。課題は多い日もあれば、少ない日もありましたが、こなせる量でした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブやボランティア活動には参加する機会はありませんでしたが、語学学校のアクティビティで、週末の遠足のようなものによく参加していました。普段使うバスやトラムなどの交通手段では行けないような場所にある Noosa や、Tamborine Mountain に行くことができるのでとてもお勧めです。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先には 4 歳と 6 歳の子どもたちがいて賑やかな毎日でした。食後はいつも子どもたちと一緒にテレビを見たり、塗り絵をしたりして遊ぶのがルーティンになっていました。通学の際は、家からバス停まではホストに送ってもらい、バスに 15 分程乗って学校に向かっていました。家の場所は、トラムや電車、バスなどの交通機関が近くになく、最寄りのバス停から家まで 30 分程歩かないといけないのが不便ではありましたが、1 人で音楽やラジオを聴ける好きな時間でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇はクリスマス前から 2 週間程度あって、友人たちとケアンズに 1 週間の旅行に行きました。オーストラリアは日本と季節が反対で、シュノーケリングをしたりして初めての夏のクリスマスを楽しみました。また、新年は友人たちと集まってサーファーズパラダイスのカウントダウンに行きました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

初めての海外での学校生活だったので、何もかもが新鮮で楽しかったですが、特に日々新しい友人と出会える環境があったことが良かったと思います。友人の友人や、クラス替え、バスを待っている時など、留学中は人との出会いに溢れていていました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

苦労したことは、ホストファミリーとの関係です。ホストと価値観の違いでわかり合えないこと、そしてそれを上手に英語で伝えられないことをストレスに感じていました。しかし、私のステイ先には日本人のルームメイトが居たので、お互いにつらい時は相談相手になって気持ちを分かち合えたのはとても良かったですし、今となっては良い思い出になっています。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

オーストラリアでは、ショッピングモールやレストランが閉まる時間がとても早いことが衝撃的でした。正確な時間はあまり覚えていませんが、夕方にはどの施設も閉まってしまうので、ホストファミリーもよく朝早くからお買い物に行っていました。また、街中を歩いていると裸足で歩いている人が多くいたことも驚きでした。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは授業で使用するので必須です。変換プラグも 2、3 つあると家用、学校用で使い分けすることができますし、学校に持って行き忘れることもないので便利だと思います。日用品だと、シャンプーなどは現地で調達しましたが、スキンケア用品は自分が使い慣れているものを日本から持って行ったほうが良いと思います。日焼け止めは日本の製品のほうが優れているらしいので、日焼けをしたくない方は多めに持ってくることをお勧めします！

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は確実に上がりました。特に苦手意識があった Writing と Speaking は留学を通して実践的に学ぶことができたおかげで苦手意識を克服することが出来たのが大きな変化だともいえます。初めのうちは本当に自信がないし、失敗することが怖いと思っていましたが、出来なくても積極的に授業に参加することで、周りの人も助けてくれて、少しずつ自信もついてきました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に行きたいという意志があるのであれば、絶対に行くべきだと思います。私は春学期のセメスター留学に申し込むことを躊躇して、チャンスを逃してしまったことをとても後悔しました。留学はお金がかかりますし、人それぞれのタイミングもあるので簡単に決められることではないと思いますが、留学の経験は自分の将来の可能性を広げてくれましたし、得られるものは想像以上に多いです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後の進路は明確ではありませんが、将来はもう一度海外で生活したいと思っているので、これからも英語学習を続けていくことが目標です。

V. 写真



最後のタームを共に過ごしたクラスメイトたちです。私がいた留学期間は日本人学生がとても多かったのですが、最後に DEP6 に上がり、国際豊かなクラスメイトたちから様々な文化を学ぶことが出来て刺激的な毎日でした。



タームを終えるごとに友人たちとバーベキューをしたことがとても思い出に残っています。友人たちと仲が良くなっていくことを実感できるのがうれしい反面、帰国などでお別れをしないといけないのが寂しくもありました。

M. T.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

大学入学前から、留学することは決めていました。本格的にセメスター語学留学を考え始めたのは、大学 1 年生の 2 月半ばです。はじめは協定留学も視野に入れていましたが、国際課の方と相談し、自分のレベルや留学の目的に合ったセメスター語学留学を選びました。また、2 年生のうちにやっておきたいことが留学以外にもあったので、約半年がちょうどいいと判断しました。

オーストラリアを選んだ理由としては、初めての海外で不安がたくさんあり、差別や治安の悪さを恐れていたのも、比較的治安もよく、多民族国家で有名なオーストラリアを選びました。また、オーストラリアに行ったことのある方のお話なども聞いて、オーストラリアに魅力を感じたことも一つの理由としてありました。

② 留学決定から出発までの準備期間

ビザ手続きは代行を頼まず、自分で行いました。「オーストラリア 学生ビザ 申請方法」で検索するといくつかサイトがでてきて、もちろん日本語で解説してくれていたのも、特に問題なく取得することができました。ビザ取得に約 2 週間以上かかると言われていたのですが、私の場合はビザ取得申請後、すぐに許可のメールが届きました。留学に必要なものなどは 2 か月前から準備し始めました。多くのものが日常使いするものだったので出国直前まで完全にパッキングは終わりませんでした。事前の勉強としては、基礎知識（単語、文法など）を勉強したり、初めての海外での生活でパニックにならないようにオーストラリアの文化、環境、生活に関しても少し学んでいきました。

③ 現地到着後

到着後、ホームステイの会社の送迎サービスを利用し空港からホームステイ先まで車で送っていただきました。この送迎サービスは事前に日本で申し込んでいたものです。慣れない場所であるのに加え、大きい荷物ですので、このサービスは利用することをお勧めします。所要時間はだいたい 1 時間ぐらいでした。ホームステイ初日に行ったことは、携帯の SIM カード購入と GO CARD（公共交通機関電子マネー）の購入です。これらはホストファミリーと一緒にスーパーマーケットに買いに連れて行ってくれて、設定も一緒にしてくれました。ただ、SIM カードの設定には少し時間がかかり、使えるようになったのは翌日の夕方でした。Wi-Fi は家に設置してあったので、すぐに使えました。

④ 語学研修機関

語学研修機関（GELI）はグリフィス大学内にある建物なのですが、駅から徒歩15分ぐらいで、少し離れた所にありました。クラスは、約15人で10～12月は半数が日本人でしたが、1～3月は3分の2が日本人で少し残念でした。5週間ごとに行われるテストでは、スピーキング、ライティング、リーディング、プロジェクト（プレゼンなど）がありました。また、5週間に1度先生との懇談があり、学習の計画や悩み事を相談できる機会がありました。クラス替えも5週間に1度あり、テストのスコア次第で決まりました。授業はスピーキング、ライティングがメインに行われていました。クラスによってはディベートを行ったこともありました。グループで話し合う機会が頻繁にあり、意見を話し合うことが多かったと思います。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

グリフィス大学の森林保護ボランティアに参加しました。この活動は大学のホームページで見つけて申し込みをしました。内容は、保護団体の方々と半日間山に行って木の保護を行うというものでした。また、インターナショナルナイトという異文化交流のイベントにも参加しました。大学に通う方々とクイズゲームをして、一緒に無料でご飯を食べました。民族衣装のコンテストも行われていました。バディプログラムというものにも参加して、5人ぐらいのチームで合計3回学校外に遊びに行きました。ムービーワールドという遊園地に行ったのが特に楽しかった思い出です。そのほか、ゴールドコーストの大学生全員が参加できるゴールドコースト市が運営している STUDENTHUB というコミュニティや MEETUP というだれでも参加できる、世界最大級のローカルコミュニティプラットフォームにも積極的に参加していました。

⑥ 現地での住まいについて

ホストファミリーは4人家族でとてもやさしい方々でした。厳しいルールどころか普通のルールもほとんどありませんでした。とても快適に過ごすことができました。庭に大きいプールがあり、いつでも泳ぐことができました。食事は、日本食、イタリアン、タイ料理、中華などたくさんのレパートリーの料理を作ってくださったうえに、野菜も毎食必ず食べることができたので大満足でした。通学時間はバス2本で約40分の距離でした。少し遠いと感じましたが、乗り換えの待ち時間はスーパーやアウトレットモールに行くことができ、苦痛に感じることはありませんでした。バス停も家から徒歩5分弱の所にあつたので、快適に暮らすことができました。ただ、最終バスがなくなるとタクシーを使わなければいけませんでした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

少し遠出のお出かけには、ゴールドコーストから電車で1時間程度にあるブリスベン

という大きな町に行くことが多かったです。そこには無料の美術館がたくさんあり、カフェも充実しており、クリスマスシーズンや年末年始はたくさんのイベントがありました。比較的近いので、週末に気軽に行くことができたのが良かったです。長期的な旅行では、飛行機で約2時間の大都市メルボルンへ旅行に行ったり、同じく飛行機で約2時間の場所にある海がきれいなケアンズにも行ったりしました。グレートオーシャンロードツアーでは、今までで一番きれいな景色に感動しました。ケアンズのグレートバリアリーフの遊覧飛行ツアーはとってもきれいなサンゴ礁が広がる海を見ることができました。週末などは、ゴールドコーストの様々なビーチを訪れ、存分に海を楽しみました。ニューサウスウェールズ州のバイロンベイにも行きました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

私の誕生日パーティーとメルボルン旅行で見た絶景の数々です。まず、誕生日パーティーでは私のお気に入りのビーチのそばにあるレストランで、みんなに20歳の誕生日をお祝いしてもらったことです。素敵なレストランに、たくさんのプレゼント、オーストラリアで出会った大好きな友達たちに祝ってもらえたので、今までで一番の誕生日になったと言っても過言ではありません。

2つ目は、メルボルンで見た、グレートオーシャンロードの絶景です。世界有数の景観を誇る海岸線の壮大さに圧巻されました。あの絶景を言葉で表すのはとても難しいですが、自然の力強さを体いっぱいに感じました。また、フリンダース・ストリートステーションをはじめ、たくさんの建物はイギリス文化が感じられ、日本では見れない街並みが広がっていました。私はこのメルボルン旅行でメルボルンが大好きになりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

ネイティブスピーカー同士の会話に入っていけなかったことがあったことです。これはホームステイ先とMEETUPというコミュニティに参加した時に起こりました。ネイティブスピーカーたちが話すスピードはとても速く、私は聞いて理解するのに必死で、会話に入るタイミングが難しく、また彼らのように話せない自分の英語力に一気に自信がなくなり、言葉が出てこなくなることがありました。はじめはこの問題の原因は私の英語力不足だと思っていましたが、途中から勇気の問題ではないかと考えるようになりました。何をしゃべろうかと考え込んでいるより、思いついたことをとりあえず口に出すことで会話に参加できることに気づきました。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

小さい文化の違いはたくさんありました。私が魅力的に感じたことは、ごみ箱が町中に

あること、まったく知らない人でも多くの人が、目が合うとニコッとしてくれたこと、生演奏をしているレストランがたくさんあるところ、店員さんがフレンドリーなところ、いろんな種類の鳥がたくさんいること、などです。私が驚いたことは、バスが遅れても日本のように遅延証明書というものはなく、自己責任であること、バスや電車で無賃乗車が簡単にできてしまうこと、たいていのスーパーではウィンドショッピングができなくなっていること（入口に改札のようなものがあり、中から出ることができない仕組みになっている）、洋服屋さんの鏡がとても少ない（ないところもあった）などがありました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役に立ったもの

日本から持って行って役に立ったものは、薄めの上着、化粧品、日焼け止め、生理用品、薬類、モバイルバッテリーなどです。基本的に生活に必要な（いつも使うもの）は最低限持っていくことをお勧めします。オーストラリアにもダイソーなどの日本の製品を扱っているお店はあるので、手に入れることは可能ですが、価格が日本の2～3倍します。また生活用品に関しては、ホームステイ先ですすでにおいてあり、不要なもの（ハンガー、ドライヤーなど）もあるので、事前にホストファミリーと連絡を取ることを強くお勧めします。薬に関しては、酔い止め、風邪薬、整腸剤、食べすぎ飲みすぎの薬、生理痛の薬は持参してよかったと思いました。また、クレジットカードは1枚が使えなくなった時のために2枚以上、また海外で使えるバンクアカウントを持っていると割り勘するときに非常に便利だと感じました。

② 語学力の向上など、留学の成果、留学前と後で変わったこと

この語学留学で最も成長した力はスピーキング力です。毎日英語でコミュニケーションをとっていたことで生きた英語を習得することができました。ネイティブスピーカーや他国の留学生と話すとき、英語は唯一のコミュニケーション手段だったので、必死に伝えようと一生懸命になれたおかげで、自分の英語力は格段に伸びたと感じます。この体験は日本語が通じてしまう日本（日本人同士）では難しいと考えます。はじめは続かなかった会話も留学生活終盤では会話を続け楽しむことまでできるようになりました。またライティングスキルも向上したと思います。週に1回ライティングのテストがあり、書き方を学び、何度も練習したのでライティングの質はよくなったと思います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は、帰国した今でも「オーストラリアに行ってよかった」と強く思います。この留学を通して私はたくさんを経験しました。海外で新しいものを体験すること、たくさんの人に会えたこと、挫折したこと、幸せだったこと、驚いたことなど、私の人生に小さ

な変化から大きな変化まで、たくさんの影響がありました。そのおかげで、自信が持てるようになり、また物事を気楽に考えることもできるようになりました。自分の改善すべき点も明らかになりました。今、留学に行くかどうかを迷っているなら、人生の中で一番時間のある大学生のうちにたくさんのことを経験するべきだと思います。人によって留学の目的は異なるので、自分に合った留学の目標を設定していくと良いと思います。

IV. 将来の目標

将来の夢は未定ですが、英語は自分の強みの1つにしたいと考えています。そのために主に TOEIC の学習を継続していこうと思います。また、将来仕事で英語を使わなくても、海外の人との交流は続けていきたいと思っています。たくさんの国の人と関わって異文化を体験したり、意見を交換したりできればよいなと思います。それに加え、この留学で日本のことを好きな外国人はたくさんいることが分かったので、日本文化を紹介し、もっとたくさんの人に日本を知り、訪れてほしいと考えます。

V. 留学中の写真

これは私の誕生日のパーティーの時の写真です。一緒に写っているのはオーストラリアで出会った友達です。この日は私にとって最高の1日になりました。



R. T.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校の時から同志社女子大学に入学してセメスター語学留学をしようと思っていたので、入学時からセメスター語学留学の募集を見ていました。留学をしてみたかったのは英語力の向上、モチベーションを高めるため、自分の視野をもっと広げるためです。

② 留学決定から出発までの準備期間

TOEIC の勉強と、渡豪に必要な書類をそろえていました。私はパスポートの期限が切れていた所以作り直す必要があったため、費用も時間もかかりました。新型コロナワクチン接種証明書も時間がかかりました。下宿していましたが住民票の住所は実家のままだだったので親に書類を送ってもらったり、代わりに市役所まで行ってもらったりとかなり大変で時間もかかり、取り掛かったのは留学が決定してからですが、期限ぎりぎりでした。

③ 現地到着後

私はオリエンテーションの 2 日前に到着しましたが、ちょうどよかったと思います。到着した日は荷解きだけで、翌日に SIM カードの購入と大学への行き方の確認、次の日にはオリエンテーションに行きました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

施設はきれいです。スタッフの方も先生も皆親切でした。GELI の建物はほかの建物と少し離れているのと建物内に電子レンジがなかったのは少し不便でした。また、私が行っていた時期がちょうど日本人がとても多い時期だったようで、クラスのほとんどが日本人で、GELI 内にもたくさん日本人がいました。英語を学ぶ環境としては残念でした。もう一方のキャンパスは全体でも日本人が 5、6 人ほどしかいないそうなので、他大学の日本人留学生はもう一つのキャンパスに移動している人もいました。

b. 授業内容・課題・試験

私は DEP5 と 6 にいましたが、6 には Griffith University に進学を目指している人もいたのでかなり大変になり 5 と 6 の差が大きく感じました。5 にいたときは試験も 5 週ごとで、宿題も毎日少しずつでしたが、6 では 3 週目からテストがあり、毎日の宿題に加えて weekly assignment もあったのでかなりハードに感じました。

⑤ クラブ・課外活動・ボランティア活動

GELI 主催の activity がありました。頻繁に無料のスポーツやゲームの activity が開かれますが、たまにお金を払って参加する大きなイベントがあって、それは自分で行くよりもかなりお得に行けるものもあるので、お勧めです。友達もできると思います。

⑥ 現地での住まいについて

ホストファミリーはオーストラリア人の 60 代のご夫婦でした。はじめはかなりスラングが多くオーストラリア英語が強くて全くわからなかったのと、自分の発音が悪いせいも全然伝わらなくて焦りました。留学後半になるとかなり分かってきました。留学生は私だけで、3 人暮らしでした。私は好き嫌いが激しいので食事が心配でしたが、ホストマザーはシェフなので本当に全部美味しかったです。ランチは毎日白米で、夜ご飯もライスとステーキなど白米が出てくることが多かったので日本食が恋しくなることもありませんでした。自分の部屋にバストイレがついていたのでシャワーも自分の好きなタイミングでいつでも浴びることができました。洗濯は週に 2 回ホストマザーがしてくれましたが、バスタオルが週に一回しか替えられないのとあまりたくさん洗濯できなかったです。アクセスが悪く、大学まで遠いのと、最寄りのバス停まで徒歩 40 分くらいかかりました。平日の決まった時間はバス停まで送り迎えしていただきましたが遊んで帰る日は自力で帰らないといけないのと、週末出掛ける時は行きも帰りもタクシーを使うのでかなりお金はかかりました。また毎日のバス代もかかります。語学学校の学生は学割が利かないので毎月 100 ドルほどは Go Card にチャージする必要がありました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇にはケアンズに行きました。シドニーに行っている友達が多かったです。早めに旅行計画を立てて、飛行機やホテルの手配も相談したほうがいいです。ホリデー期間のクリスマス前から年明けまでは飛行機代が通常よりかなり高くなります。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

クリスマスに 2 週間の休みがあるのでその期間にケアンズ旅行に行ったことです。私は、ホームステイだと人の家にいる感覚がして、どうしても落ち着かなかったのですが、旅行中はなにも気にせず自分の好きなように過ごせたのが自由に感じられて息抜きになりました。また、見慣れたゴールドコーストの雰囲気とは違うケアンズは刺激的で面白かったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

ホストファミリーの英語が早く、スラングもよく入ってくるのではじめは全くなにも理

解できていませんでした。自分の英語も思ったよりも全然通じなくてはじめは焦って、つらかったです。留学後半になるとかなり分かっては来ましたが、それでもまだ 1 回で聞き取れないことがあり、聞き取れなくて聞き返したら、そんな難しいこと言っていないと言われ、真顔で大きな声で言い直されるのが時々怖く感じました。

また、ホストファミリーの生活様式に合わせるのも苦労しました。料理の時の手順や切り方、洗い物の仕方など、すべてをホストファミリーのやり方、手順に合わせるのが難しく、私がなにも考えずに動いていて間違えているかのように言われるのがつらい時もありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

水着や素足の人が普通にスーパーや町中にいるのと、バスの運転の荒さにはびっくりしました。私は家が遠く、バスに乗っている時間が 40 分くらいあったので最初の一か月はちょっとスマホをみただけでもすぐに酔ったので、酔い止めがあれば大丈夫だと思います。2、3 か月すると慣れました。またバスは、場所によっては夕方の 5 時には最終バスが終了してしまうところもありました。たまにバスが来ないこともあれば予定時刻の 10 分前に来たり 10 分後に来たりすることもあるとあって、バス停で 2 時間待ったこともあります。バスのせいで大学に遅れたことも何度かありました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

授業はすべて Microsoft の OneNote を使うのでパソコンは必須です。マウスやマウスパッドも私は毎日使いました。不具合があれば修理しておくか新たに購入していくなどしたほうがいいです。iPad なども持っていれば便利だと思います。それに、毎日重い PC とお弁当をリュックに入れて通学していたので最初の 1 か月くらいでリュックが破れました。大容量で丈夫なリュックがお勧めです。

レンジ対応のお弁当箱や洗いやすい水筒なども現地で買えますが、持って行ったほうがよかったと思います。洗濯ネットは日本から 2 つ持っていきましたがすぐ破れたので、丈夫で大きい洗濯ネットもいくつかあれば便利です。風邪症状、頭痛、生理痛、胃痛、酔い止めなど現地で買えますが全部日本から持っていきました。特に私は頭痛持ちなので使い慣れた薬が良かったです。また乾燥がひどいので、保湿クリームや美容液もあって良かったです。私は化粧水やクレンジングなどのスキンケアは使い慣れたものを使いたかったのでたくさん持っていきました。生理用品も日本のものが良かったので多めに持っていきました。Go Card 用のパスケースやモバイルバッテリー、日焼け対策グッズも役立ちました。折り畳みが便利なので、折り畳み日傘と雨傘を持っていきました。海に入る時用の防水のスマホ入れも役立ちました。

クレジットカードはアップルペイに接続完了してから渡豪することをお勧めします。私はメインのクレジットをアップルペイに入れずに来てしまったのでこちらからカード会社に連絡して接続ができず、結局日本にいる時からアップルペイで使っていたサブのクレジットで仕方なく何度か支払いをしました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニングはかなり向上したのではないかと思います。しかし私の一番大きな変化は、モチベーションです。留学に来るまでは将来の目標や夢、やってみたいことが決まっておらず、ただ何となく周りに合わせて TOEIC や資格など勉強していましたが、留学に来てから、さまざまな理由、目的でオーストラリアにいる人に出会い、刺激を受けました。自分の将来を真剣に考えるきっかけができ、目標ややってみたいことも出来ました。そのため、目標に向けて勉強したいことがたくさん増えて、学びに対する意欲がとても高まりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

英語を向上させたい、という人だけでなく、私のように勉強のモチベーションを高めた人、将来の目標がないという人にも留学はお勧めです。このセメスター語学留学は約半年間のプログラムなので、短すぎず長すぎず期間もちょうど良いと感じました。私は過去に一度も留学経験がなかったので半年間は不安でしたが、この留学で半年間留学をしてよかったと思っています。私が留学したオーストラリアのゴールドコーストは本当に魅力的なところでした。気候も良く、ビーチもきれいで日本との時差も1時間で、混みあっておらず、みんなフレンドリーで私はとても過ごしやすいところだなと感じました。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

具体的な進路はまだ考えているところですが、将来の目標は海外に住むことです。留学を通してなにか自分の将来を決めるきっかけなどできればと思っていましたが、この留学での経験は私の将来に重大な影響があったと思います。日本にいるときに出会えなかったようなさまざまな目標、動機でオーストラリアに来ている人に出会えたことが大きいと思います。自分がそれまで考えてもなかった人生の選択肢を与えてくれ、刺激を受けました。

V. 写真



2ターム目の時の DEP5 のクラスの集合写真です。スーダン出身の子と、ここには映っていませんがあと一人中国人の子がいました。外国人は本当に少ないですが、楽しかったです。



12 月末に仲良くしていた日本の友達がほとんど帰ってしまうので BBQ をしました。クラス関係なく集まってみんなで食材を買いにスーパーに行き公園で肉を焼いて食べました。オーストラリアはほとんどの公園に BBQ をする場所があります。